

観光振興対策特別委員会記録

開催日時 平成30年11月28日(水) 10:02~11:29

開催場所 第1委員会室

出席委員 8名

中川 崇 委員長

岩田 国夫 副委員長

亀田 忠彦 委員

池田 慎久 委員

松本 宗弘 委員

田尻 匠 委員

乾 浩之 委員

今井 光子 委員

欠席委員 なし

出席理事者 折原 観光局長

増田 まちづくり推進局長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 11月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

<会議の経過>

○中川委員長 それでは、ただいまの説明、またはその他の事項も含めて、質問があればご発言願います。

○今井委員 何点かお伺いをします。

まず、ムジークフェストのことですけれども、今、どれぐらい集客につながっているのかということと、債務負担行為で7,840万円が今回出ていますけれども、来年のムジークフェストは全てこれでいけるのか、まだ新たに予算をつける必要があるのか、そのあたりをお尋ねしたいと思います。

それから、大立山まつりですけれども、4年目を迎えることになると思うのですが、計画を見ますと、暖かい時間に参加できるので少しは参加しやすくなると思いますが、当初、冬場の観光客をふやすということで始まったお祭りかと思いますが、これによって、

何を目指して祭りをこれからしていくのかということと、予算面ではどうなっていくのか、その辺のことをお尋ねしたいと思います。

○桐田文化振興課長 ムジークフェストの集客及び予算の関係です。

まず、集客の状況ですが、今年度実施しましたムジークフェストにおいては、実行委員会主催のコンサートの来場者が約11万5,000人となっています。

予算ですが、先ほど及川知事公室審議官から説明したとおり、まずは今年度の補正予算、それと今年度と来年度にわたる事業ということで債務負担行為の補正予算、平成31年度当初予算、今のところ来年度は、あわせて3つの構成で予定しています。以上です。

○福井ならの観光力向上課長 大立山まつりの関係で3つのご質問です。

まず1点目、今年度を実施する大立山まつりの目的、狙いです。今回4回目ということで、これまでいろいろ取り組み方法を検討しながら毎年続けてきたところです。今年度については、3月に開場した朱雀門ひろばも最大限活用しながら新たなものに取り組んでいこうということで、この7月の第1回実行委員会の際には、民間の委員の方に参加いただき、実行委員会の運営のあり方についても民間主導でやっていこうと検討してきたところです。それが今回の実施計画になっていますが、今井委員がお述べの冬場の宿泊観光客をふやすという目的については全然変わっていません。取り組みの方法としていかにあるべきかを検討した中で、会場、季節的に非常に寒い季節であることも考慮しながら、旧来の取り組みを変更せずに、新たなコンテンツをふやしながらかつ客につなげるようにと考えています。

この会場だけではなく、実際に県南部・東部地域へいろいろな方に行っていただきたい、回っていただきたいという思いもあります。先ほどありました、例えばバスツアーの実施や、県内の3つの日本遺産の紹介なども具体的に盛り込んで目的を達したいと考えています。

それと、予算ですけれども、7月9日に本年度の予算案を実行委員会で議論いただきました。その中で、昨年度1億2,000万円であったものを、今年度は県からの負担金も含めて実施するというので、全体の予算は9,170万5,000円という形で組んでいます。昨年度よりは3,000万円ほど減っていますが、可能な限り精査しながら実施したいと考えています。以上です。

○今井委員 ムジークフェストの平成31年度当初予算は、3つの構成で幾らかを、もう一度教えていただきたいと思います。

大立山まつりは、親しみやすくするために、愛称、奈良ちとせ祝ぐ寿ぐ（ほぐほぐ）ま

つりというのを出していただいていますけれども、少し覚えにくいという印象があります。愛称にするのならもっと短く親しみやすくしないと、何という祭りだったかとなるといけない、これは私の印象ですけれども、そのように思います。

それから、古代の正月の行事、御齋会（ごさいえ、みさいえ）、これほどのようなものなのかを教えていただきたいと思います。

それと、地場産業の販売に、宇陀市の毛皮革製品と御所市のハップサンダルが出ているのですけれども、例えば広陵町の靴下など、何かもう少し地場産業を広げるということを考えられているのか、その点をお尋ねしたいと思います。

○桐田文化振興課長 平成30年度の補正予算が1,340万円、債務負担行為が7,840万円、来年度の当初予算として現在予定していますのが1,820万円、合計1億1,000万円となっています。以上です。

○福井ならの観光力向上課長 まず、愛称の件です。これまで第1回から第3回までは奈良大立山まつりということで実施してきています。今回も、名称については大立山まつりで変更ありません。しかし、今回4回目を計画する中で、非常にかたい、大立山というところで何をするのか目的がわからないといった、いろいろな意見が出てきまして、一度、愛称的なものをつくってはどうかということで、いろいろ検討したところです。せっかく奈良でやるわけですので、奈良にふさわしい名前ということで、先ほど折原観光局長の説明もありましたように、万葉歌人である大伴家持の1つの歌を引用しながら、末永く長寿を祝うような祭りにということで、祝ぐ寿ぐまつりとしたところです。非常に長いということは承知していますが、この名前一つが、例えばいろいろな親しみやすさといったものを生むのではないかと考えています。

それから、御齋会（ごさいえ）、ないしは御齋会（みさいえ）ということですが、これは奈良時代の後半から始まった行事で、称徳天皇が宮殿で正月に行われた行事を再現してみようということで今企画しているところです。歴史の研究者にも今回、民間委員として入っていただいていますので、意見をいただきながら、当時の衣装を、例えば礼冠や礼服を再現しながら、皆さんに見ていただこうと考えています。以上です。

○今井委員 ムジークフェストが1億1,000万円ということはわかりました。ムジークフェストは少しPRが足りないのではないかという気がするのです。今やっているの、という感じで、それだけたくさんのお金をかけているのであれば、今、奈良に来たらどこでも音楽があふれているということをもっとうまくPRして、集客に結びつける必要が

あると思います。

それから、大立山まつりですけれども、せっかく民間に委託をしているいろいろな知恵を集めていますので、こうした名称一つにしても、もっと公募をして、県民の関心を集めるなど、そういう中でいろいろ進めていくという取り組みも必要だと思います。

それから、別のことで伺いますけれども、先日の連休に交通が大変渋滞していたということで、木津のあたりから全く車が動かなくなったという苦情の電話を私のほうにもいただきました。ちょうど奈良少年刑務所の見学会などもあり、とてもいい観光シーズンでしたので、奈良に行きたいという方がたくさんおられたのではないかと考えています。

奈良の観光をエリアを分けた統計で見ますと、平成28年の資料で、Aエリアが奈良市、生駒市、山添村で、36.5%がこちらに行かれています。Bエリアが県西部で、私の地元なども入っていますが、そこは13.6%。Cエリアの県東部、天理市、橿原市、桜井市、宇陀市、宇陀郡、高取町、明日香村と、こちらの方面は41.0%と、こちらも割と人気のエリアかと思っています。あと南部が8.9%ということで、県西部と県南部の集客が少ないように思いますけれども、今、いろいろバスツアーなども企画をしてと言われていましたが、もっとそうしたところのよさを引き出していきたいと思っています。世界各国でもインバウンド観光客がふえていて、観光客が押しかけることで、地元の人々の日常生活に大きな影響を与えていると、この間テレビでも報道されていました。各国の取り組みでおもしろいと思ったのが、イギリスではMr. ビーンがあまり人が行かないスポットを紹介して、人を誘導しているなど、そのような取り組みもあると聞きましたけれども、もう少し県全体のいいところを紹介して、奈良市だけに集まらないということも必要かと思っています。これについて、もし何か考えておられることがあったらお尋ねしたいと思います。

それから、(仮称)登大路バスターミナルについて、外の枠がとれ、概要が見えてきました。以前にいただいたバスターミナルのイメージ図を見ますと、今のと随分感じが違う。周辺がずっと緑なのですが、今のはここに壁があるのですけれども、このことはどのようにされようとしているのかお尋ねしたいと思います。

それから、先日、がっちりマンデー!!というテレビ番組を見ていましたら、今、小型バスが非常に人気があると紹介されていました。普通のサイズの5分の1ぐらいの小さいミニバスで、時速が19キロメートルしか出ないと。だから、シートベルトの着用も要らないし、外枠も別に必要がないということで、狭い道でも小型で入っていけるので、その地域では遊園地や動物園などを回るのに大変人気があるということでした。馬見丘陵公園

も今、大変人気があって、たくさんの方が来られているのですけれども、距離が長いので、端から端まで行くと、また帰ってくるのが少ししんどいという思いがあり、馬見丘陵公園にこういうバスなら導入できるのかと思ったのですけれども、こうした移動の問題で何か検討していることがあったら教えていただきたいと思います。

○街道観光プロモーション課長 県の西部、南部方面等を含めて、県全体の観光のプロモーションの観点で答弁いたします。

奈良の観光のプロモーションの考え方ですけれども、以前、委員からご質問いただいたときにお答えしましたけれども、まずは奈良に来ていただくということで、大きな核となる行事を目玉に据えて、観光のプロモーションを図っているところです。興福寺中金堂が落慶しましたので、これを軸に全国展開して、まず奈良に来ていただくという取り組みをしています。

そこから各地を回っていただく取り組みとしては、奈良うましめぐりというものがあります。各社寺や、いろいろなアクティビティーなど、そういったものの商品開発をしていただき、それを奈良県ビジターズビューローから各旅行会社に商品という形で紹介、商品説明会という形でさせていただいて、各地への伝播、波及を図っているところです。

直接、南部に行っていただく取り組みとしては、県内版デスティネーションキャンペーンがあります。昨年度は天川村を中心にしましたけれども、今年度は、桜井や明日香エリアを中心としたキャンペーンを12月下旬から3月下旬で実施する予定をしています。直接そこに入らせていただいて、市町村が行うイベントと連携し、また交通事業者の協力もいただきながら、駅やバス、そういったところでの大々的なキャンペーンをお願いするという形の取り組みをしています。

もう1点、イギリスの取り組みとして、Mr. ビーンが隠れた名所を訪れてというお話がありましたけれども、県としては、これまでからもファムトリップという、招請旅行という形で、海外のメディアの方や、ブロガーの方など、情報発信のインフルエンサー、伝播力を持った方をお呼びして、奈良の隠れた魅力を発掘していただく取り組みをしています。先日も大手海外メディアの方に、信貴山で宿坊体験などをしていただき、その案内などもさせていただいて、そういったことをメディアを通じて発信していただき、それを全世界に届けるといった取り組みをしています。以上です。

○上平奈良公園室長 (仮称) 登大路バスターミナルについて、パースと現実の木の緑が違うのではないか、どうするのかということについてお答えします。

今の状態は、ちょうど冬で葉が落ちた状態になって、すけすけになった目立った状態になっています。この前の木は基本的には、一部伐採しましたけれども、伐採はしていませんし、伐採したところについては、大宮通り側になるのですけれども、補植も考えています。夏場にもっと木が茂った状態のときに、もう一度見て検討してみたいとは思いますが、基本的には今までの状態にはなっていると思います。以上です。

○佐竹公園緑地課長 馬見丘陵公園の移動支援についてお答えします。

馬見丘陵公園では、昨年10月のフラワーフェスタ、今年4月のチューリップフェアのそれぞれ2日ずつなのですけれども、電動カートでの社会実験を行い、結構乗っていたのですが、コスト的な話、公園の中ですのでカートが走っていることが認知されておらず、安全性の問題や、どの程度の輸送能力があるかなど、多くの課題があります。これらについて検討していきたいと考えています。以上です。

○今井委員 バスターミナルについて、夏の葉が茂ったとき、あれはそのまま置いてあるのですか、横の塀はどうするのでしょうか。

(「そのまま」と呼ぶ者あり)

そのままですか、わかりました。少しイメージが違うと思いましたので。

それから、電動バスのことはいろいろ検討していただけるということですが、奈良県の場合、山間部が多く、山間部にもいろいろな名勝地や隠れたスポットがたくさんあると思います。このようなバスなどがうまく活用されれば、地元の方の生活の利便性にもつながる面もあると思いますので、ぜひそうした面からも検討をしていただきたいと思います。お願いして、私の質問を終わります。

○池田委員 私からも数点質問したいと思います。

まずは、2025年大阪万博開催が決定しました。皆さんとともに喜び合いたいと思います。これまでご尽力をいただいた大阪府、大阪市をはじめ、日本政府、それから公益社団法人関西経済連合会をはじめとする経済界等々、関係する全ての皆様に感謝を申し上げたいと思いますし、私ども奈良県も知事をはじめとして一定の協力、誘致活動にご尽力をいただいたと伺っています。あわせて感謝を申し上げたいと思います。

そこで、奈良県の観光がこれからますます注目されますし、以前から観光振興対策特別委員会でも申し上げていますが、観光客をお迎えして、その受入環境の整備や、課題となっていますホテルの誘致、整備、それからいい印象を持って帰っていただき、またリピートしていただくと、そういったつながり、好循環をこれから急いで、スピード感を

持ってぜひ取り組んでいただきたいということを冒頭に申し上げたいと思います。

その中で、いろいろ個別の案件としてお伺いしますけれども、まず、(仮称)登大路バスターミナルについてです。先ほど今井委員からもお話がありましたが、外側の囲いが少しとれて、全容を見ることができてきまして、いよいよ完成間近かと思っておりますけれども、バスターミナル建設の現在の進捗状況について、まずお聞かせいただきたいと思います。

○上平奈良公園室長 (仮称)登大路バスターミナルの現在の進捗状況についてお答えします。

バスターミナルの建設工事に関しては、建物本体の工事のほか、付随する電気設備、機械設備、昇降機設備工事を実施しています。現在、建物内部の仕上げの工事など、最終段階になっており、完成は12月末の予定です。

建築工事以外にも外構部において、進入路や歩道工事などを現在実施しています。今後、舗装工事、植栽工事、案内サイン工事、照明工事などに着手して、来年3月末の完成に向けて鋭意取り組んでいるところです。以上です。

○池田委員 3月末に全て完成ということですが、その後、オープンの見通しはどのようにお考えでしょうか。

○上平奈良公園室長 工事について、今述べたように3月末までかかりますので、それを越えてからオープンしたいと思います。具体的な日にちが決まり次第、報告させていただきます。

○池田委員 バスターミナルが完成した後の観光バスの動きはどのようになるのかお伺いしたいと思います。具体的には、10分間隔ぐらいでバスターミナルに観光バスが来て、そこで乗客をおろして、そこからバスは駐留の施設で待機をしていただき、また乗客を迎えに来ていただくという流れと理解をしていますけれども、完成後のバスの動きについて、今決まっている範囲で結構ですので、お聞かせいただきたいと思います。

○上平奈良公園室長 バスの動きについてお答えします。

バスターミナルは観光バスの乗降場として整備しており、奈良公園に来ていただいたバスについては、大宮通りから入って、バスターミナルで乗客を降車させて、そのまま北のほうから出て、県庁西交差点を奈良公園と反対側の西の方向に向かって、駐機するため回送します。このため、公園内のバスの流入は抑制されまして、渋滞緩和を図る計画です。

池田委員が先ほどお述べのように、今の計画では大体10分間隔で予約等もとるつもり

です。バスターミナルの運営については、完全予約制を現在行っているのですけれども、引き続き完全予約制にして、バスの利用時間、到着時間の平準化も図るようになっていきたいと思っています。以上です。

○池田委員 もしわかればですが、観光シーズンのピークで1日どれぐらいのバスが乗りおりする、入る予定なのか、わかれば教えていただきたいです。

○上平奈良公園室長 バスの台数については、5月から6月と、9月から11月の初めぐらいがちょうど修学旅行や遠足などで一番多い時期になります。そのころで、例えば350台など、おおよそ300台のバスが来られます。それ以外の時期については、おおむね220台から230台など、200台前半ぐらいの台数が来られています。少ないときは150台など、そういう台数になっています。以上です。

○池田委員 一方で、バスターミナルでおりた観光客が歩いて、東大寺や春日大社など、奈良公園周辺を観光、散策されるわけですけれども、観光客の動きについて、私もいろいろご意見をいただいていますので、紹介させていただき、県の考え方を尋ねたいと思います。すぐ東側の旧知事公舎の横を通り、吉城園の前を通って、それから水門町の中を通って、戒壇院から東大寺の大仏殿へ至るルートが、恐らく最短距離になってくると思っています。そこで、水門町の住民の方から、大勢の観光客が団体で通られると、随分住環境や、周辺の環境が変わってくると心配をされています。もちろん公道ですので、通ってはいけないという規制はできないとは思いますが、そのあたり、観光客をどのように誘導していくのかについてお尋ねしたいと思います。

一方で、大仏殿の交差点から南大門にかけて商売をされている方々、それから県が整備をした氷室神社の東西に至る県道の北側の歩道ですけれども、このかわいで商売をされている方も、人の流れがどうなるのだろうという、ある意味商売にもかかわってくることで、ご心配をいただいている向きもあります。このあたりについて、県としてどのように観光客をバスターミナルから奈良公園、東大寺、春日大社方面に誘導していこうとしているのか、その動線について県としての考えがあればお聞かせいただきたいと思います。

○上平奈良公園室長 バスターミナルからの動線についてお答えします。

バスターミナル内には奈良公園の散策を有意義にするためのガイダンス機能を整備しています。まずはターミナル内で奈良公園について学んでいただき、その後、奈良公園内を散策していただくということですけれども、動線については、バスターミナルから直接県庁東交差点の地下歩道に入れる通路を今の工事で設置しています。この地下歩道を経由し

て、公園内道路、おっしゃられた北歩道や、特に広い奈良国立博物館前の歩道などを利用してもらうルートを考えており、そのために、そちらへの案内サインも設置したいと考えています。

○池田委員 基本的には既存の地下の通路を通られて、県道の南側の歩道、広いほうの歩道を通して奈良公園へ向かっていただくという誘導を、案内サインなどを掲示してやっていただくという理解でいいのでしょうか。

○上平奈良公園室長 はい。

○池田委員 ぜひ、先ほど申しましたように、公の道を通ってはいけないとはできないと思うのですが、人の流れというのは非常に大事だと思いますので、周辺に影響のないように、またスムーズに観光客を誘導できるように、県としての取り組みをお願いしておきたいと思います。

もう1点、観光バス関連で、この夏から予約制になりました大仏殿前駐車場が閉鎖されるように報道もありましたけれども、県として、この駐車場についてどのように今後活用していこうと考えているのかお聞かせいただきたいと思います。

○上平奈良公園室長 バスターミナル供用後の大仏殿前駐車場については、奈良公園周辺に観光に訪れていただいた方の利便性や快適性の向上のために、有効な活用方法について現在検討しているところです。報道等にあつたように、閉鎖して誰も入れないということではありません。

○池田委員 せっかくのいい場所にある駐車場、施設ですので、ぜひ有効な活用を今後十分検討していただきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

繰り返しになりますけれども、来年の4月にいよいよ（仮称）登大路バスターミナルがオープンされるということです。恐らく4月ということでしょうが、先ほど上平奈良公園室長からも答弁がありましたように、5月の連休明けには、修学旅行や遠足などの、観光バスを利用して奈良にお越しになる方のピークを迎えるわけです。いきなりピーク時期に突入ということで、うまくスムーズな流れができるのかいささか心配はしていますけれども、十分にデータ等をとっていただいてスムーズに運用できるようにお願いをしておきたいと思いますし、それが何よりも今回バスターミナルをつくった、周辺の渋滞緩和につながると思いますので、ぜひお願いをしたいと思います。

それから、バスを別の場所に駐留させると、回送させるということですが、このあたりについても、当然、動線に当たっては、先ほど申しましたように、少ないときで150台、

多いときであれば200台を超えるということですので、周辺の道路への渋滞等の影響も当然のことながら心配されますので、関係機関とも十分調整をしていただき、奈良公園周辺、県庁周辺は確かに渋滞はなくなった、あるいは少なくなったけれども、実は郊外で渋滞がひどくなったということにならないように、総合的にバスの回送ルート等について取り組みをお願いしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

それから、要望ですけれども、11月の初め、連休のときに正倉院展に合わせて試験的に運行していた、奈良公園と平城宮跡を結ぶ直通のバスについてもどれぐらいの利用があったのか、どういう評価があったのかということはまだ出ていないということですのでけれども、ぜひこれを定期的に走らせていただくよう、あわせてお願いをしておきたいと思えます。

続いて、修学旅行をはじめとする教育旅行の誘致についての取り組みをお尋ねします。

修学旅行のメッカと言われている、この奈良ですけれども、現在、少子化の影響で修学旅行生、学校数も随分と昔に比べると減っているということですが、以前と比べてどのような現状なのか、修学旅行についての推移をお聞かせいただきたいと思えます。

○街道観光プロモーション課長 修学旅行、教育旅行の推移ですけれども、平成29年の教育旅行の県内延べ宿泊者数ですけれども、17万3,000人です。統計をとり始めました平成21年の19万7,000人から比べると約12%減少している状況です。修学旅行の多様化や、少子化の進展で学校数も減ったという状況もあり、宿泊者数は減少傾向にあるということでした。

○池田委員 少子化だけではなく、修学旅行の形が随分と近年変わってきたということが理由なのかと思えます。確かに我々の時代は本当に修学旅行、名のとおり、学ぶための修学旅行といった要素が強かったわけですけれども、最近では体験型や、楽しみであったりなど、何か思い出づくりの修学旅行になっているのが非常に残念ではありますけれども、一方で、奈良というのは日本の始まりでもありますし、しっかりと学んでいただく場所も魅力もたくさんありますので、ぜひ引き続き修学旅行の誘致に向けて取り組んでいただきたいと思えます。修学旅行以外に、一般的な教育旅行と呼ばれるものについても、現在、県として取り組んでおられると伺っていますけれども、こういったことに力を入れて取り組んでいるのかお聞かせいただきたいと思えます。

○街道観光プロモーション課長 教育旅行全般についてですけれども、まず、今ふえていますのが海外から来られる訪日の教育旅行です。台湾をはじめ、アジア各国を中心として

順調に増加しています。平成29年度で、受入延べ学校数は、44校、1,771人となっており、平成25年度から比べると5倍ぐらいの人数にふえています。従来から台湾が多かったのですけれども、最近、平成29年度、特に中国からの受け入れの実績が増加しています。また、小中学校との交流がしたいということで、割とこれまで高等学校などが多かったのですけれども、小中学校との交流もふえてきています。

訪日教育旅行は、若年層の交流拡大によりまして、国際相互理解の増進や国際理解教育の推進、また訪日外国人旅行者の増加、リピーターの育成にもつながるもので、国際交流を通じて地域振興にも寄与するものです。また、受け入れ側の県内の学校としても、生徒が海外の方といろいろ交流できる、とても有意義なものだという声も聞いています。

そういったことから、県の取り組みとしては、平成19年度から観光部局に訪日教育旅行のコーディネーターを配置して、学校交流のコーディネート、橋渡しをしています。

また、誘致に向けては、国が推進するビジット・ジャパン地方連携事業を通じて近隣府県、京都府、兵庫県、和歌山県、公益財団法人大阪観光局などと一緒に、台湾、香港、オーストラリアなど、現地でのPR活動を行っているところです。また、先ほど申しましたように、中国がふえているということで、県独自でも中国に対しての現地PR活動を行ったところです。

その他の教育旅行ですけれども、スポーツ合宿、勉強合宿という形の教育旅行もふえてきていますので、こういった内容をふやしていくという取り組みもこれから進めていきたいと思っています。特に私立学校の取り組みですけれども、横浜の慶應義塾高等学校では、歴史のコースで古都選択コースがあるようでして、そういった選択コースを履修した子どもたちがやってきて奈良を学ぶというメニューもされています。また、小学校で、東京の学習院の初等科ですけれども、これも修学旅行を兼ねたもので、奈良の歴史文化を学ぶために、3日間、奈良に宿泊されて学ぶといった取り組みをされているところです。こういう取り組みなどもありますので、奈良は学ぶ教育という意味ではすごくいいところと認識していますので、そういったことも積極的にPRしていきたいと考えています。

○池田委員 国内でも、先ほど私立学校の例を出していただきましたが、慶應や学習院でしっかり奈良で学ぶために修学旅行の訪問先として選んでいただいているということは大変素晴らしいことであり、ありがたいことだと思います。

他方で、少子化で修学旅行生が奈良を訪れるケースも少なくなっている中で、外国に目を向けて、力を入れて訪日の教育旅行を誘致していこうという取り組みを聞かせていただ

いて、よくやっただいていてと思います。今後も引き続きインバウンドの取り組みの中で教育旅行についても力を入れていただき、多くの皆さんに奈良を知っていただき、奈良の魅力を感じていただける学び中心の観光といいますか、教育旅行の誘致をさらにお願いしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

最後に、M I C Eの誘致についてお尋ねします。

冒頭に申しましたように、大阪万博が2025年に決まりました。それから、以前から申し上げていますけれども、2019年にはラグビーワールドカップが開催をされ、2020年は、言うまでもなく、東京オリンピック・パラリンピックがあります。そして、2021年はワールドマスターズゲームズ2021関西ということで、非常に大きなイベントがこの関西で続きます。当然、それに参加される方、それからそのご家族の皆さん、それを機会に日本、関西に目を向けていただき、その中でも奈良に目を向けていただき、奈良に大勢の方に来ていただくという取り組みが必要であろうと思います。

あわせてM I C E、いわゆる研修、国際会議、国内の学会など、比較的大規模な大会、それから会議、また日数もそこそこ、滞在日数も多くなると。このM I C Eの取り組みについて、ぜひ力を入れていただきたいと以前から申し上げていますけれども、2020年には奈良市役所の南側に、収容規模2,000人のコンベンションセンターが新しくでき上がります。この新しい施設へのコンベンション誘致について、どのように取り組んでいくのかお聞かせいただきたいと思います。

○山口大宮通り新ホテル・交流拠点事業室長 2020年に開設する新コンベンション施設のM I C Eの取り組み状況についてお答えします。

2020年には大宮通りに、2,000人規模の国際会議が開催可能な新しいコンベンション施設であります奈良県コンベンションセンターがオープンすることから、大規模な国際会議の誘致に向け、観光局と情報共有を図りながら、奈良県ビジターズビューローと協力して誘致活動を進めているところです。

奈良県コンベンションセンターがオープンする2020年以降の案件については、既に会場を決める段階に入っている案件が多いことから、本年5月から奈良県コンベンションセンターの運営を担当いたしますP F I事業者において、仮予約及び受け付けを開始しています。11月14日現在の仮予約及び相談件数は、2020年の案件では、規模が500人未満が4件、500人以上1,000人未満が2件、1,000人以上1,500人未満が4件、1,500人以上が3件の合計13件です。2021年以降の案件ですが、

500人未満が2件、1,000人以上1,500人未満が1件、1,500人以上が4件、その他2件の合計9件となっています。中には会議全体で延べ4,000人の参加が見込まれるものもあります。内容別としては、国内会議が12件、国際会議が4件、その他式典、講演会などが6件となっています。奈良県コンベンションセンターにおける大規模な国際会議の開催については、PFI事業者、県及び奈良県ビジターズビューローが協力して、MICE誘致をさらに強化して推進していきます。

その一例として、県では2021年開催予定の第24回UNWTOの総会誘致に取り組んでいるところです。各国の観光大臣が会する約1,300人規模の会議で、その開催による直接の経済効果だけでなく、国内外へのPR効果を含めて、おもてなし環境の改善による観光施設の魅力向上がその後の外国人観光客誘客につながるなど、地域経済活性化等の大きな意味を持ち、MICE誘致に大きく貢献するものと考えています。現状、県から国へ総会誘致を要望しているところでして、引き続き誘致に向けて取り組みを進め、奈良県コンベンションセンターにおける開催につなげていきたいと考えています。以上です。

○池田委員 以前からMICEの件については力を入れて、ぜひおくれのないようにしていただきたいとのお願いを、観光振興対策特別委員会でもしており、今ご紹介いただいたように、2020年には1,500人規模の予約が3件入っているということで、大変素晴らしいことだと思います。また、2021年には4件ということで、大規模なコンベンションが新施設によって誘致できることは本当にうれしい限りです。それ以外にも1,000人から1,500人、500人から1,000人、500人未満とそれぞれご紹介をいただきましたけれども、これからはしっかりとMICEの取り込み、誘致について力を入れてやっていただきたいと思っています。

中でも、ご紹介がありましたように、UNWTOの会議については、県が手を挙げて誘致活動をこれからやっていこうということで、2019年10月に総会で決定されるということですが、それに向けて、奈良県としてもしっかりと取り組んでいただきたいとお願いをしておきたいと思っています。

核となる2,000人規模の大きなコンベンションセンターができますが、それ以外の施設、例えば奈良市内であれば奈良春日野国際フォーラム豊など、ほかの市町村においても中規模、小規模ではありますが、会議を行える施設が多数あります。当然のことながら、新しい奈良県コンベンションセンターだけで全てということではなくて、そういったこれまでの既存の施設などでもしっかりと引き続き会議等、コンベンション等、MI

C Eの誘致に取り組んでいく必要があると思いますが、このあたりの取り組みについてもあわせてお聞かせいただきたいと思います。

○街道観光プロモーション課長 まず、M I C Eの全般的な誘致に向けた取り組みについてご説明します。

県としては、大きく4つ課題があるという形で、重点項目として4つ定めています。1つ目は、誘致力のさらなる強化、2つ目は、大規模M I C Eの新規開拓、3つ目は、開催地としての魅力向上、4つ目は、官民連携の誘致プラットフォームの構築、これらの大きく4つの項目で進めているところです。

1つ目の、誘致力のさらなる強化の取り組みですけれども、I C C A、国際会議協会というものがあまして、ここに情報が集まる仕組みがありますので、ここに加入して情報を収集することに努めています。また、M I C E開催の判断材料で、会場やホテル環境、アクセスなどの情報を発信できるP R動画を今年度、作成を予定しており、これを通じて海外に向けてもP Rしていきたいと考えています。

2つ目の、大規模M I C Eの新規開拓の取り組みですけれども、U N W T Oの総会誘致に向けたトレーニングという意味もありますが、観光庁と奈良県主催で、来年の2月に、持続可能な観光に係る国際シンポジウムの開催を予定しているところです。場所は奈良春日野国際フォーラムを予定しています。こういった国際会議の開催実績を積み、世界に向けて、国際会議の開催地としての奈良県の認知度を高めていきたい、M I C Eブランド化を図っていきたい、このように考えています。

3つ目の、開催地としての魅力の向上ですけれども、奈良県の現状を踏まえた国際会議誘致を進める必要がありますので、マーケティング機能といいますか、そのあたりを強化する必要があるということで、海外の有識者によるコンサルティングを受けているところです。これは観光庁との事業ですけれども、有識者によるコンサルティング事業を県だけではなくて、ホテル事業者等のM I C Eにかかわる事業者と一緒に受けて、弱み、強み、どういうところを伸ばしていけばいいのかなど、こういった事業を今年度行っています。

4つ目の、官民連携のプラットフォームの構築の部分ですけれども、今年度から観光プロモーション課にM I C E推進係を設置していますので、体制を強化して、今後は一層、先ほど述べました3つの項目を進めていきたいと考えているところです。

次に、奈良独自の特殊性の部分強化しての売り出しですけれども、いわゆるユニークベニュー、ベニューというのは会場ですが、奈良の特殊性を生かした会場開発という取り

組みを進めているところです。これまで、例えば春日大社の貴賓館や長谷寺の本坊などが、コンベンションの会場として利用されています。ことしの2月に観光庁主催のユニークベニュービジネスセミナーが開催されましたけれども、ここでは橿原神宮の神宮会館が奈良の会場として選ばれています。また、ことしの3月に平城宮跡歴史公園がオープンしました。こういったユニークベニューをいろいろ活用して、奈良らしい会場の提供やサービスといったことを、独自の取り組みとして対外的に売り込んでいきたいと考えています。以上です。

○池田委員 言うまでもなく、MICEの誘致に当たって必須となるのが会議を行うための会議場があるということで、これは整いつつありますし、また大きな施設だけではなくて、県内のさまざまな施設、エリア、地域でそれを誘致していこうといった環境が整いつつあるというのが、きょうの質問の答弁の中でもわかってきました。

それから、やはり奈良が弱いと言われている、参加者、来られた方が泊まるホテル、宿泊施設についてはまだまだなのだろうと思いますので、ぜひこのあたりについても、県が宿泊施設を建てるというわけにはいきませんので、民間が奈良に投資しやすい環境整備を市町村とも連携しながら整えていくことが必要だと思います。また、会議施設と宿泊施設とのアクセスの問題も、できるだけ近い距離で容易に往復が、それぞれ会議場と宿泊施設とアクセスできる環境も必要であろうと思います。

あわせて、やはりおもてなしの気持ちです。これは我々県民全体が、来られた方に対しておもてなしができるような、食事であったり、居心地のいい奈良県、環境をつくっていく必要があろうと思いますし、また、会議の合間に観光など、いろいろなところをめぐるれると思いますが、そのときのアクセスもそうですし、こういったルート設定を情報提供できるかといったところも非常に大事なのだろうと思っています。

いずれにしても、先ほどから答弁にありますように、今、県でしっかりと取り組んでいただいていることは、事実として評価をしていますけれども、その中でも、訪問先として、個人旅行、団体旅行、教育旅行、あるいはMICEでも、いろいろな機会を捉えて奈良を選んでいただく、奈良に行ってみようと思っただくことと、来ていただいて、学びや、奈良のすばらしい魅力を体感していただいて、いい思い出、いい印象を持って帰っていただく。また、繰り返しリピートして奈良を訪れていただくという好循環ができる取り組みを、官民が力を合わせてやっていただくことをお願いして、質問を終わります。よろしく願いいたします。

○田尻委員 私の考え、現状も含めて数点質問をしたいと思います。

まず最初に、大立山まつりですが、数回を経て、いよいよ方向性が固まってきたと思うのですが、今度は新しい朱雀門ひろばで、施設もでき上がりましたし、私も毎回参加をさせていただきますが、1つは寒い、それから長居ができない。去年は若草山の山焼きと合わせての開催でしたが、目の前に大きな木があって見えない、煙しか見えない。これは遠過ぎるという皆さんの意見がありました。

そのようなことを含めて、多く集客するためにいろいろといただいていることで、今度は暖かいということとともに、若草山の山焼きは全国的に大変有名であろうと思っています。また、大立山まつりの歴史と比べれば、それは想像を絶するぐらいのことがあろうと思います。そのような中で、前にも観光振興対策特別委員会、あるいは関係の委員会等でも申し上げたのですが、近鉄奈良駅など、その周辺の商店街の皆さん方にお伺いをすると、やはり大立山まつりは西というか、平城宮跡のお祭りだと。だから、我がほうとはあまり関係ありませんという、そのようなイメージが非常に強いとの意見が役員会等でも出ていました。そのことを踏まえて、大立山まつりの実行委員会も、前にも申し上げたはずですが、取り入れていただけていませんけれども、どうして商店街の皆さん方や東の皆さん方がメンバーに入ることができないのですかということをお願いしました。検討しますと言ったまま、現在のメンバーに入っていない。非常に残念に思っていますし、できれば東向、三条通り、餅飯殿などを含めて、各商店街の中に、大立山まつりをやりますと、若草山に来られた皆さん、大立山まつりと連動してくださいというポスターを、中へ貼ってもらおうような働きかけの考えがなぜ浮かばないのかと、残念に思っています。

ポスターもいろいろありますけれども、いいポスターはやはり人気があるのです。なぜかといいますと、ご承知のとおり、私の事務所がこの近くの大和ビルにあります。その前に、県がする行事のポスターを、県からお預かりをして貼らせてもらっています。そうしたら、何枚か夜にとっていかれるのです。それで、一回試しに関西ワールドマスターズゲームズのポスターを貼ったら、いつまでも残っているのです。だから、イメージなのですけれども、それでわかるのです。持っていく人は押しピンをきれいに外される。だから、何かのときだったらぱっと破られますけれども、横に押しピンもきちんと置いてある。ということは、誰かが家に持って帰っている。よく電車の中でもポスターがとられたという話がありますけれども、そういうことを含めて、相乗効果というか、いいものをつくっていいことをすると。それにはPRが非常に大事だと強く思っています。ここは絶対に考え

ていただきたいと、前からそのように申しあげています。先ほど池田委員がおっしゃっていましたが、ぐるっとバスの中で平城宮跡と近鉄奈良駅と。まだ数値は統計がとれていないということですが、ルートも含めて、より密接にさせていただくことが大事かと思っています。

一例なのですが、1月26日に若草山の山焼きがあります。若草山の山焼きに行こうということで、福井県のある団体の皆さん方が奈良へ30数名で行きたいので、それがメインなのですが、やはりせつかくということで、お昼に奈良で会議をしよう。会議をして、その後、午後5時ぐらいから歩いて行こうという予定で近鉄奈良駅の、私どもがお世話になっている事務所の、20室ありますが、会議室の予約を入れられたら全室満室です。一つもあいていない。どうしてかと聞くと、全て若草山に行かれる皆さんが会議や、それに準じることをしながら午後5時ごろから行かれるということで、1月26日が全て満室なのです。それほどの人気がある。これは非常にいいことだと思って、何とかしてほしいと言うし、私も来ていただきたいと思ったので、重ねてお願いをして、この近くの飲食店でお願いをしました。何と夜は全室ほぼ満席です。どうしてかというと、大手の旅行社が毎年全室を押さえるらしいです。パッケージを組んで売るから、一般の人が行けない。もちろん断られる大手もあります。けれども、毎年毎年そうしていただいている。毎年、若草山の山焼き、正倉院展でそのように全室押さえていただくと。たしか奈良ホテルの部屋も、若草山の山焼きのときは何年も前から全部押さえてあるはず。ことし、たまたまですけれども、京都の大文字送り火があるホテルの部屋から食事をしながら見ましようというご案内をいただき行きましたが、毎年その団体が押さえているらしいです。だから、一般の人が入れない。それほど人気があつていいことなのですが、そういうことを含めて、もう少し運動性というか、もう少しキャパシティを上げて、ぜひ考えていただきたいと思っています。

それから、奈良で団体客に泊まっていただくことは非常に大事で、コンベンションやいろいろな話が出ていますが、そのとおりなのですが、やはり修学旅行は1つの学校が1つのホテルあるいは1つの宿泊施設で泊まっていただくことが安全上、先生の負担等も含めてベストというか、そうでなくてはならないという思いが非常に強いようです。ですから、奈良へ行きたいけれども、3つ、4つになると、なかなか子どもたちの時間や、交通渋滞もあわせて難しい。そうしたら、奈良で泊まることは不可能という話になります。

それから、もう1点、ここは大事なポイントだと思っているのです。奈良へ観光客が来

られます。例えばお泊まりになります。その観光バスは夜、どこで駐車しているというか、駐泊していると思われませんか。大半は大阪へ帰るのです。大阪へお願いします。奈良で夜、バスを一見で置かせてくれるところはどこにもないです。東京から私の知り合いの団体が30人でマイクロバスを借りて来られました。夜、奈良で泊めてもらおうと思ってさんざん交渉しましたがけれども、どこもだめです。最終的には知り合いの敷地内に置かせてもらいましたけれども、なぜかという、警備が非常に難しい。万が一いたずらや、万が一何かされると、次の日が全てキャンセルになってしまう。大きな責任を背負っているのだめです。そこで、奈良交通株式会社にお伺いをしました。どうしているのですかと聞きました。奈良交通株式会社は46都道府県で協定を結んでいて、例えば愛媛県へ行ったときには、愛媛県のバス会社にバスを預けます。そのかわり、愛媛県の方が奈良へ来られたときは、奈良交通株式会社のバス駐車場で安心して預からせていただきますと。だから、そういう相互の形がなければ、大阪へ帰る、京都へ帰るわけです。エージェントの皆さんに聞くと、そういう費用、経費、時間を考えると、宿泊は京都がいいのと違いますか、大阪がいいのと違いますかという案内しかしにくいという実情があるようです。そういうことを含めて、昼だけ来ていただく、交通渋滞対策も、もちろん大事なのですけれども、私が聞き及んだ話の中で現実的なことも大きなポイントになろうと思っていますので、ぜひその点についてお願いを申し上げたいと思っています。

次は、何度かいろいろな委員会等々で申し上げてきましたが、ついにJRおおさか東線が来年開通することになりました。ある意味では、先ほど今井委員もおっしゃいましたけれども、奈良県西部の王寺や周辺の皆さん方が直通で新大阪へ行けるとい、新たな客を呼び込める、あるいは皆さんも非常に便利になるということで大変ありがたいと思っていますのですが、ただ、方向性としては、直通列車が朝に4本、夕に4本という限られた本数になるということが非常に寂しいというか、少ないと考えています。そのことを含めて、やはり最低1時間に1本ないし2本はぜひとも運行していただくように、JRとの協議の中で進めていただく大きなポイントと思っています。

それから、もう1点は、大変いいことですが、近鉄奈良線の東大阪に河内永和という駅があります。皆さんもご承知のとおり、河内永和というのは立派な駅ですけれども、普通しかとまりません。快速急行も、急行も、準急もとまらない。ところが、河内永和駅に今度はJRおおさか東線がつながって、そこから新大阪へ行けるのです。そうなってくると、今まででしたら、新大阪へ行くときには鶴橋で乗りかえて、大阪で乗りかえて行くか、難

波から御堂筋線で新大阪へ行くというのが奈良の人というか、生駒の人も含めてそういうパターンだったと思うのですが、これが今度は河内永和駅で乗りかえたらそのまま新大阪へ、次はJRで行けるという大変便利な、大変時短になるという、すばらしいのですが、普通しかとまらないと、これは大きな問題だと。私はすごく残念というか、早急に対応しなくてはならないと。最低でも準急、あるいは急行だけはとめてくださいと、絶対、近畿日本鉄道株式会社と交渉するべきだと思っています。例えばイベントや、いろいろなときに、近鉄も駅に臨時停車をしたり、高の原に特急をとめたり、あやめ池遊園地があったときに急行をとめたりされていたということもあります。ぜひ河内永和駅を一つの新しいポイントとして、事実としてあるのですから、そこは利用するべきだと思っています。

いろいろな質問をと思っていまして、いろいろと県当局の皆さんとお話を申し上げましたけれども、なぜか残念なことに、観光振興対策特別委員会に地域交通の担当がおられないということで、答弁ができるような、できないような話です。私が申し上げたことはこういう現実、事実があるということ踏まえて、これから観光行政の中でやっていただきたいという思いも含めて、要望のような、質問のようなことをしました。もしその中で、これなら私どもの部局が答弁できる、考え方があるという課長や局長がおられれば、おっしゃっていただければ結構ですし、そうでなければ、そういうことを十分に踏まえて新しい施策を推し進めていただきたいと思っています。以上です。

○福井ならの観光力向上課長 大立山まつりに関して答弁します。

このお祭りは、もう何回も言いますが、奈良の宿泊観光客の最も少なくなる冬の季節に宿泊客を呼び込むためということで、平成27年度から実施しているものです。この祭り自身に、地域性というものはなく、奈良県全域の伝統的な行催事や、あったかもんといったものを結集、また披露いただくということを祭りのコンセプトとしています。そういうことから、特定の地域との連携というよりは、全県的な連携を前提に祭りの企画運営をしているところです。

今年度の祭りの実施に当たっては、先ほど申しましたが、民間の委員の方にも実行委員会に入らせていただきました。委員だけではなく、下部組織として企画運営委員会を設けて、いろいろな方面の関係の方にも参画いただいています。田尻委員のおっしゃるようなびつたりの委員というのはなかなかいらっしゃらないのですけれども、今回、12名の方に企画運営にかかわっていただいています。その中には奈良のきたまの関係者や、餅飯殿の関係者の方にも入っていただいたところです。今後も企画運営にかかわる委員について

は、いろいろな関係の方に入っただけのように、働きかけていきたいと考えています。

なお、近鉄奈良駅周辺への説明不足の件に関しては、今、12月をめどに鋭意資料を作成していますので、今年度の祭りのチラシ、ピラ、ポスターができたころに、祭りの目的、今年度の概要について、地域の商店街等に周知していきたいと思っています。以上です。

○田尻委員 これからいろいろと前向きに検討を進めていくということで、非常にありがたいと思っています。やはりスピード感が大事だと思っています。

そんな中、近鉄奈良駅に外貨の両替機を置いていただきました。来られて、外貨に両替をする。円にかえるときに、銀行へ行けば、パスポートやいろいろな手続で20分、30分かかる、言葉が通じない。だから、それはなかなかできないという話を伺いました。そんな中で、いろいろな関係機関や県、観光協会にもお願いをして、近鉄奈良駅に自動の両替機を置いていただきました。これは非常に喜んでおられますし、利用率も高い。そして、何よりいいのは、例えばドルを円にかえる、帰るときに、円をドルにかえるという往復ができるということで、非常に有効に利用していただいていることを大変うれしく思います。やはりスピード感と、きちんと早い対応をしていただくことを重ねてお願いして、私の意見と要望とします。終わります。

○中川委員長 ほかにありませんでしょうか。

そうしましたら、これもちまして質問を終わります。

それでは、理事者の方のご退出願います。お疲れさまでした。

(理事者退席)

それでは、会議を再開します。

本日の委員会を受けまして、委員間討議を行いたいと思います。委員間討議もインターネット中継を行っておりますので、マイクを使って発言願います。

まず、平成31年2月定例会において、調査を終了し、その成果を報告するわけですが、調査報告書の骨子案を事前に各委員にお送りしております。骨子案の構成や、成果の取りまとめとなる提言等について、ご意見等をいただきたいと思いますので、よろしく願います。あわせて、各委員におかれまして、観光振興に対する思いやお考えがありましたら、この機会にご発言をお願いいたします。

それでは、ございますでしょうか。赤字のところが先日の9月定例会の委員会の内容を追記しているのですが、特にこんなことも書いてほしいなど、ありませんでしょうか。

そうしましたら、何かありましたら、今回の11月定例会中に事務局までご連絡願います。11月定例会中にいただいたご意見を踏まえて、調査報告書の案を作成します。作成した調査報告書の案については、事前に委員の皆様にお配りし、2月定例会で最終の協議を行いたいと考えておりますので、よろしく願います。

そうしましたら、ほかに何かありませんでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

そうしましたら、ほかにありませんので、これをもちまして委員間討議を終わります。

これで本日の委員会を終わります。